



# 吉高ニュース

平成28年度 5月号

岐阜県立吉城高等学校渉外部

## 4月の様子 ～校訓「行学一致」「自主・創造」「心身の錬磨」～

### 4/8 入学式 (全日制第61回生)

普通科118名，理数科24名の計142名が入学しました。入学式では新入生を代表して，清水絃能さんが宣誓しました。式終了後，最初のホームルームを行い，その後，正面玄関で恒例のクラス写真を撮影しました。



「専心学業に励んで，本校の生徒として誇りある生活をすることを誓います。(新入生宣誓)：鈴木校長から入学を許可され，新しい高校生活がスタートしました。

### 4/11 対面式 4/12 部紹介

新入生と2・3年生が顔を合わせる対面式では，生徒会長の岩佐文巳弥さんが新入生へ歓迎の言葉を述べ，上野弦哉さんが新入生を代表して挨拶しました。翌日の部紹介では，各部が実演など，工夫を凝らした演出で新入生に入部を呼び掛け，大きな拍手が送られていました。



「先輩が，楽しそうに部活動の紹介をしていて，面白かったです。(1年生女子)」「サッカー部の劇など楽しくて，自分も部活動をやりたいと思います。(1年生男子)」

### 4/19 古川祭 (英語ボランティア)

YCK (吉高地域キラメキ) プロジェクトの一環です。「古川祭り」での海外からの観光客に対し，授業で学んだ英語を使って積極的に地域に関わろうと4年前から取り組んでいます。3年生の英語会話の授業では，英語のコミュニケーションの事前研修を行いました。2年生は，山中和紙で「観光案内カード」を作成し手渡ししました。



「地域について知らないことが多くあることに気づきました。地域の高校生が地域活性化に向けて，どのようなことができるかを考えていきたいと思いました。(参加生徒)」

### 4/21, 22 新入生放課後学習会

新入生が，吉城高校生としての学習方法や学習態度を身につけられるよう，今年も新入生放課後学習会を行いました。21日と22日に放課後2時間を使い，全員参加で臨みました。この他，自主的に学ぶきっかけを作るために，教科でもオリエンテーションを行っています。



「高校生活が始まり，今までとは違う環境になり大変ですが，学習会を終えて，自分がどのように勉強したら良いか知りました。家でも，学習会の時のように，集中して頑張りたいです。(新入生女子)」

## 吉城高校・校歌制定物語

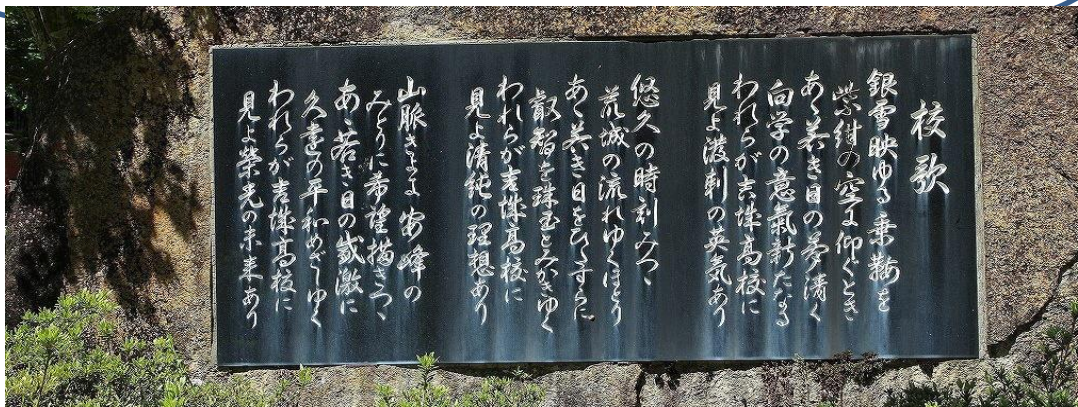
### 作詞は全国公募，作曲は著名な作曲家に要請

吉城高校は，地域からの高等学校設立の要望が高まるなか，昭和23年に組合立の昼間定時制高校として誕生しました。最初は，古川中学校の校舎を間借りして授業を行っていました。草創期の本校には校舎も運動場も無く，あるのは，農業などの勤労に従事しながら，それでも学びたいという生徒の熱気だけでした。

草創期に校歌を作る余裕は無く，「校歌が無いのは淋しい」という生徒会の要望もあり，昭和32年度に校歌制定の準備委員会ができました。作詞は中日新聞，朝日新聞等で全国公募しました。条件は，「安峰山」「荒城川」の言葉を必ず入れることでした。費用は，生徒や保護者の協力によりました。

111篇集まった詞の中から，奈良県斑鳩町（当時）在住の辰巳利郎氏の詞が選ばれました。辰巳氏は，高山市の市歌なども手掛け，校歌や音頭など，多数の作詞をしておられました。作曲については，作詞制定後，作曲家の平井康三郎氏に依頼しました。平井氏は，当時，東京音楽学校（東京芸術大学）助教授でNHK専属作曲指揮者でもあり，ラジオ歌謡や日本民謡の作曲に従事しておられました。

特に「向学の意気新たなる（1番）」「叡智を珠玉とみがきゆく（2番）」「久遠の平和めざしゆく（3番）」の詞から，戦後の困窮の中で生まれた吉城高校の心意気が伝わってきます。（創立20周年記念誌，創立30周年記念誌等を参考）



吉城高校広報誌「吉高ニュース」は，

～吉城高校が地域の皆様からより愛される高校になるために～

地域と学校の懸け橋となり，吉城高校の魅力を発信していきます。

\* 古川町と宮川町の方には回覧で，河合町の方には各世帯でお読みいただいております。また，吉城高校のホームページ <http://school.gifu-net.ed.jp/yosiki-hs/> からでもご覧になれます。

\* なお，「吉高Today」と「ひだろポ」は，ほぼ毎日更新しております。

